

令和2年度 生野区運営方針(素案)

(区長 : 山口 照美)

◆計画

区・局の目標（何をめざすのか）
すべての区民に「居場所」と「持ち場」のあるまち

区・局の使命（どのような役割を担うのか）
<ul style="list-style-type: none"> ・すべての区民が「居場所」で安心して暮らせるセーフティネットの役割 ・すべての区民が「持ち場」を持てる市民参画の機会拡大 ・区の未来を描き実行をしていく「未来志向のまちづくり」の推進

令和2年度 区・局運営の基本的な考え方（区・局長の方針）
<p>「居場所」と「持ち場」のあるまちとは、区民ひとり一人が安心してつながりの中で暮らし、まちの活動の担い手としての役割を持っているまちである。少子高齢化の最先端のまちとして課題解決を進めると同時に、人口や地域活動の担い手が増える「持続可能なまちづくり」を目指していく必要がある。「来たい、住みたい、住み続けたい生野区」となるための“未来志向のまちづくり”を進めていく。そのための「生野区政3本柱」を軸にして運営を行う。</p> <p>【生野区政3本柱】 「子育て・教育環境の整備」……教育環境の整備やつながりの場づくりを通じて、子育て世代に選ばれるまちとなる。 「空き家対策」……空き家の建て替えやエリアリノベーションに官民協働で取組み、生野らしさを活かしたまちの魅力をつくる。 「多文化共生」……多国籍の外国人と共生し「世界につながる生野区」として、まちの活性化につなげる。</p> <p>これらの実現のためには職員が部署を超えて知恵を出し合い、地域・企業・各種団体と一緒に「生野の未来」を創っていかねばならない。「持ち場をつなぐ」「持ち場を広げる」を合言葉に、ひとりも取りこぼさないセーフティネットの構築と、未来のまちの姿を見据えた運営を行う。</p>

重点的に取り組む主な経営課題（様式2）	
経営課題の概要	主な戦略
<p>【経営課題1】安全・安心を身近に感じて暮らせるまち (防災・防犯)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時に機能する自主防災体制を強化の支援や危機事態への対応のため、関係機関との継続的な情報共有が必要。 ・空き家の自主的な建替が進むよう、地域が主体となった課題解決に向けた取組の支援が必要。 ・街頭犯罪や特殊詐欺のおこりにくいまちづくりへの地域住民一体となった取組を、地域住民と連携しながら進めていく必要がある。 <p>(地域福祉)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種健(検)診の重要性を意識啓発するとともに、健康に関心を持ってもらうよう周知を図っていく必要がある。 ・公的な福祉サービスだけでは解決できない地域における多様な課題に対しては、地域の担い手を育成し、取組を担うネットワークなどの持続可能な仕組みづくりが必要。 <p>(多文化共生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国籍住民の人権、多文化への理解、啓発推進に取り組んできたが、増加するニューカマーを含めたすべての外国籍住民を対象とした取組が必要。 ・行政機関及び地域団体は、区内の外国籍住民の属性や居住エリア、コミュニティの形成状況など生活実態の把握に努めると同時に、日本人と外国籍住民が互いの生活様式や価値観、マナーなど、相互理解に向けての取組を進めるとともに、日常的な相互交流を行うことを促進し、外国籍住民が区内地域コミュニティに参加しやすくなるための環境づくりを行う必要がある。 	<p>【1-1 災害に備えて】 ・危機発生への未然の対策および発生後の被害を最小限に抑えるため、災害時に機能する自主防災体制の構築や老朽空家家屋の自主更新などを支援することにより、地域と連携・協働を図り、地域が一体となった主体的な取組へとつなげる。また、昨年発生した大阪府北部地震、台風21号、24号での経験を踏まえ、地域での自主防災の取組の支援を推進していく。</p> <p>【1-4 ひとりも取りこぼさない支援を】 支援を必要とする全ての人々が、一人ひとり社会全体とつながりを持ちながら、各機関から支援を受けることができる体制づくりを進める。</p> <p>【1-5 すべての人々の人権を互いに尊重し】認め合える環境づくり】 ・様々な人権課題への理解を深め、偏見や差別意識をなくす啓発を行う。 ・外国籍住民が地域住民の一員として共に触れ合い学びあえる交流機会を提供するとともに、地域コミュニティへの参画・協働を促し、地域活動の担い手としての人材発掘・育成に取り組む。 ・国際都市大阪の取り組みに沿う形で、オール大阪としての先進事例をつくる。</p>
主な具体的取組（2年度算定見込額）	
<p>【1-1-1 地域自主防災力の強化】(2年度算定見込額 3,473千円) 共助による減災に向けた地域自主防災活動を支援するため、地域防災訓練や地域防災マップ作成支援、Web版防災・水害ハザードマップの更新のほか、地域防災リーダー研修会の実施や防災の基本である自助(家具転倒防止対策等)の啓発、区防災マップ(更新版)の全戸配布を行う。</p>	
<p>【1-4-2 貧困の連鎖を断ち切るための支援】(2年度算定見込額 4,732千円) 生徒の自尊感情を醸成し、将来の夢や目標を持ち、その実現に必要な「自ら学ぶ力」の定着、基礎学力の向上に向けて、「生きるチカラを育む課外授業」を行うとともに、「生きるチカラまなびサポーター」を学校の要請に応じて派遣し、「キャリア教育」や「性・生教育」の取組を支援する。</p>	
<p>【1-5-2 外国籍住民とのコミュニケーション媒体の活用・地域住民との交流促進】(2年度算定見込額 495千円) 防災や基本生活情報の多言語表記及びやさしい日本語による情報発信を促進するとともに、区内民間施設(日本語学校など)、外国人コミュニティとの連携強化をはじめ多文化共生に向けた当事者・支援者による自主的な取組への支援を行う。</p>	

経営課題の概要	主な戦略
<p>【経営課題2】子育てにやさしく、教育につよいまち</p> <p>◆こども・子育て環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心して子育てのできる環境を整えるため、子育て情報が容易に収集できる環境を整備するとともに、孤立化しがちな子育て世帯などが気軽に相談や交流できるような機会を提供するなどの支援が必要。 ・次世代を担う若い世代を呼び込むために区民だけでなく、区外の方々にも安心して子育てのできる環境をアピールすることが必要。 ・絵本読み聞かせの必要性や楽しさを知る機会を提供する等により、親子のコミュニケーションやこどもの知的好奇心を高める必要がある。 	<p>【2-1 安心してこどもを産み育てることができる環境づくり】</p> <p>次世代を担うこどもたちが健やかに育つために、区民が安心してこどもを産み育てることができる環境や相談支援体制をつくり、子育てが楽しくなるまちづくりを進める。</p> <p>【2-2 未来を生き抜く力の育成】</p> <p>保護者や地域住民と具体的かつ丁寧に意見交換を重ねながら、区西部地域の学校再編を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力を身につけ、学び続けるための「自立(自律)学習」、自分を知り視野を広げ目標を持つための「キャリア教育」、教育活動をサポートする外部連携を充実させる「チーム学校」を3つの柱に、教育環境の充実や学校・教育コミュニティの支援を進める。 ・地域の生涯学習活動や生涯学習推進員を支援し、生涯学習に取り組む区民が学習の成果を地域に還元できるよう支援する。 ・こどもが地域の大人に学ぶことで、多世代交流を図る。
<p>主な具体的取組（2年度算定見込額）</p>	
<p>【2-1-1 ライフステージに応じた子育て支援の充実】(2年度算定見込額 4,444千円)</p> <p>妊娠から出産、乳幼児期から就学期にわたる各ライフステージをトータルで支援(妊娠期から、保健師との顔の見える関係づくりによる継続した支援、子育て支援機関等と連携等)。</p>	
<p>【2-2-1 次世代の学校づくり(学校配置の見直し)】(2年度算定見込額 30,199千円)</p> <p>「学校整備計画」(案)を取りまとめ及び「学校設置協議会」を設置し、新学校の設置に向けた協議を行う。</p> <p>生野区西部地域学校再編整備計画の進捗に合わせて、学校跡地を核としたまちの活性化に寄与する跡地活用方法を検討する。</p>	
<p>【2-2-2 次世代の学校づくり(「生野の教育」の実現)】(2年度算定見込額 6,433千円)</p> <p>「生野の教育」の実現に向けて、学び支援事業、民間事業者等を活用した課外授業「いくの塾」、生きるチカラを育む課外授業、生きるチカラまなびサポート事業を実施する。</p>	
経営課題の概要	主な戦略
<p>【経営課題3】いどり豊かな魅力のあるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生野区の持つ多様な地域資源を発掘し、魅力あるものに高めていくとともに、区民のまちに対する愛着や誇りが高まるような取組や区の魅力・特色を区の内外に向けて効果的に情報発信し、区に訪れ、住んでもらえるような戦略的なプロモーションの必要がある。 ・生野区の重要な地域資源である製造業事業所数の減少に歯止めをかけるため、次世代の育成を小学生だけでなく、中学・高校生や未就学者まで対象を広げ、区内企業を知ることやものづくりを体験する場などの環境づくりが必要。 ・生野区の空き家を地域資源として、建物所有者による自主的な利活用が進むよう、地域が主体となった課題解決に向けた取組を支援していく必要がある。 	<p>【3-1 地域資源から魅力資源へ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりの楽しさや地域における企業の重要性を区民へ周知するために、行政だけでなく、企業や各種団体と連携して取り組む。 ・「大阪市空家等対策計画」を踏まえ、地域住民組織や地域で活躍する事業者などとの連携を促進し、空き家の利活用など区内の空家等に関する諸課題の解決に取り組む。 <p>【3-2 生野区シティプロモーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区民のニーズや区役所の各施策の魅力を整理し、適切なターゲットに適切なタイミングで届ける。 ・行政情報に限定せず、地域のまちづくりに関するさまざまな活動主体の取組を紹介し、生野のまちづくりに区民が積極的に参加していることを区民に知ってもらい、区民のシビックプライドの醸成を図る。
<p>主な具体的取組（2年度算定見込額）</p>	
<p>【3-1-2 空き家の利活用による新たな魅力づくり】(2年度算定見込額 437千円)</p> <p>土地建物所有者による空家の建替えや利活用を促進するために、地域住民組織や地元で活動する事業者等が一体となって取り組めるよう支援する。空き家利活用サポーター制度の活用を図る。</p>	
<p>【3-2-1 「生野の魅力」の発掘・浸透】(2年度算定見込額 21,705千円)</p> <p>子育て層・若年層等、ターゲットごとに生野の知名度・好感度が上がる魅力情報を各種広報ツールを活用し、まちに魅力を感じるような情報を発信する。</p>	

「令和2年度以降の市政改革計画」に基づく取組等（様式3）	
主な取組項目	取組内容
主な取組項目	取組内容
主な取組項目	取組内容

◆自己評価

1年間の取組成果と今後取り組みたいこと

解決すべき課題と今後の改善方向

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題3

【 いろいろ豊かな魅力のあるまち 】

計 画	めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年を念頭に設定＞ 生野区のまちが、子育て世代に選ばれ、若者が活躍でき、そして区民が誇りに思えるまち
	現状（課題設定の根拠となる現状・データ） ・少子・高齢化・人口減少が急速に進んでいる。 ・出生率の減少と死亡率の増加→自然増減率の減少 ・外国籍住民の急増（特にベトナムやネパール等） ・製造業の事業所数・従業員数の減少傾向が続いている ・空家率：生野区22.4%（24区中3位）、全国13.5%、大阪市17.2% ・「その他の住宅」（不動産市場に流通しない空き家数）が市内で突出して多い。 大阪市 73,510 生野区 6,920（24区中1位） ・BRTの社会実験（いまざとライナー）が開始（平成31年4月～） ・生野区は、様々な人々が訪れ、住みたいと感じられるような魅力あるまちだと感じますか。（平成30年度区民アンケートより） 全体で555名の方の回答のうち、「そうでない」、「どちらかといえばそうでない」と回答した人の割合が46.9%を占めた。
	<p>そうでない 12%</p> <p>そうである 13%</p> <p>どちらかといえばそうでない 35%</p> <p>どちらかといえばそうである 40%</p>
	要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果） ・少子化にともなう若年層の減少による出生率の減少へ ・高齢人口の増加による死亡率の増加 ・生野区の魅力の発掘・浸透が十分ではない ・住んでいる方が感じている生野区の魅力、子育て層が移り住みたいと思う情報、若者が遊びに来たくなるような情報の発信が十分ではない。 ・景気の悪化や、後継者不足による事業所数の減少・従業員数の減少 ・市場に流通していない空家の増加と建物老朽化
課題（上記要因を解消するために必要なこと） ・人口減少に歯止めをかけ、生野区が持続可能なまちとなるためには、主に若年・子育て層の移住・定住を促進させる必要がある。 ・生野区の持つ多様な地域資源を発掘し、魅力あるものに高めていくとともに、区民のまちに対する愛着や誇りが高まるような取組や区の魅力・特色を区の内外に向けて効果的に情報発信し、区に訪れ、住んでもらえるような戦略的なプロモーションの必要がある。 ・生野区の重要な地域資源のひとつである製造業事業所数の減少に歯止めをかけるには、次世代の育成を小学生だけでなく、中学・高校生や未就学者まで対象を広げ、区内企業を知ることやものづくりを体験する場などの環境づくりが必要である。また、操業時に発する騒音や振動など住工混在による問題から、ものづくり企業が区外転出しているため、行政だけでなく、企業や区民と連携してものづくり企業の重要性を周知し、区民の理解を図る必要がある。 ・生野区の空き家を地域資源として、建物所有者による自主的な利活用が進むよう、地域が主体となった課題解決に向けた取組を支援していく必要がある。	

自 己 評 価	戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

めざす成果及び戦略 3-1 【地域資源から魅力資源へ】

計画	めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定>		戦略(中期的な取組の方向性)	
	生野のまちの持つさまざまな地域資源が魅力的なものに磨かれ、生野のまちが区の内外の人々にとって多彩な魅力のあるまちである状態		ものづくりの楽しさや地域における企業の重要性を区民へ周知するために、行政だけでなく、企業や各種団体と連携して取り組む。 ・「大阪市空家等対策計画」を踏まえ、地域住民組織や地域で活躍する事業者などとの連携を促進し、空き家の利活用など区内の空家等に関する諸課題の解決に取り組む。	
自己評価	アウトカム(成果)指標(めざす状態を数値化した指標)		課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	・生野区は多彩な魅力のあるまちであると感じる区民の割合:令和3年度末までに80%以上 ・今後5年程度の空家の活用意向がある所有者の割合:令和2年度までに90%以上		今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須	
戦略のアウトカム指標に対する有効性		ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す		
アウトカム指標の達成状況		前年度	個別	全体
		A:順調 B:順調でない		
戦略の進捗状況		a:順調 b:順調でない		

具体的取組 3-1-1 【ものづくりの伝統を守り、受け継がれるための支援】

30決算額 2,088千円 元予算額 8,890千円 2算定見込額 225千円

計画	当年度の取組内容		プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)	
	◇企業・教育機関・地域団体などと連携し、ものづくりの楽しさや大切さを実感してもらうために、次世代育成を目的としたイベントを開催。 ・イベントの開催回数:1回以上 ◇学生を対象とした区内企業への見学会などを実施し、区内のものづくり企業に対する理解を深め、将来の担い手につなげる。 ・区内企業への見学会などの開催:随時 ◇ものづくりのまち生野をPRするためにHP、広報紙、各種イベントを通じて「ものづくり百景」を周知する。		・見学会などへの参加数:100人以上 ・区役所ホームページのものづくりページのビュー数:2,400件/年 【撤退・再構築基準】 ・上記参加者数が20人未満であれば、事業を再構築する。 ・上記件数が1,000件未満の場合、事業を再構築する。	
中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成			
自己評価	戦略に対する取組の有効性		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す 一:プロセス指標未設定(未測定)			
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
自己評価	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成			
自己評価	戦略に対する取組の有効性		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す 一:プロセス指標未設定(未測定)			

具体的取組3-1-2

【空き家の利活用による新たな魅力づくり】

30決算額 301千円 元予算額 541千円 2算定見込額 436千円

計画	当年度の取組内容 ◇土地建物所有者による空家の建替えや利活用を促進するために、地域住民組織や地元で活動する事業者等が一体となって取り組めるよう支援する。 ・地域による老朽住宅や空家の建替え・利活用を促進するためのセミナー等の開催(随時)【再掲】 ・地域が主体となった空家対策会議の開催:4回 ◇空き家利活用サポーター制度の活用を図る。(通年)	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標) 空き家利活用に関する取り組みが進んでいると感じる区民の割合:30% 【撤退・再構築基準】 上記割合が10%未満の場合、事業を再構築する。
	前年度までの実績 【令和元年度】 ・新規指標 ・空き家利活用事例紹介:7回【再掲】 ・地域が主体となった空家対策会議:7回【再掲】	

中間振り返り	プロセス指標の達成状況 ①:目標達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性 ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)	

自己評価	当年度の取組実績 プロセス指標の達成状況 ①:目標達成(i)取組は予定どおり実施(ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成(i)取組は予定どおり実施(ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須 改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性 ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)	

めざす成果及び戦略

3-2 【生野区シティプロモーション ～来たい、住みたい、住み続けたいまちへ～】

計画	めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定> 生野のまちが子育て世代に選ばれ、若者が活躍でき、そして区民が誇りに思えるまちとなっている状態	戦略(中期的な取組の方向性) ・区民のニーズや区役所の各施策の魅力を整理し、適切なターゲットに適切なタイミングで届ける。 子育て層:職住近接の暮らし・子育て支援の充実・教育環境の充実 若年層:まち歩き楽しさ・昭和レトロな風景・多文化交流の魅力 中高年層:昭和の時代のなつかしさ・あたたかさ ・各施策や地域活動を「生野の魅力」として積極的に発信することで、区内外を問わず、「生野ファン」を増やす。 ・行政情報に限定せず、地域のまちづくりに関するさまざまな活動主体の取組を紹介し、生野のまちづくりに区民が積極的に参加していることを区民に知ってもらい、区民のシビックプライドの醸成を図る。 ・官民連携シティプロモーションオープン会議から生まれた(一社)いくのもりとの事業連携協定にもとづき生野区の魅力等情報発信を行い、シティプロモーションを推進を図る。 ・外国籍住民が多い、銭湯が多い等の生野区の特性を、新しい魅力資源として区民や区外の人に向けて紹介できる取組を実施
	アウトカム(成果)指標(めざす状態を数値化した指標) 様々な方々が生野のまちを訪れ、住みたいと感じられるような魅力あるまちであると感じる区民の割合:令和3年度末までに50%以上	

自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性 ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカム指標の達成状況 前年度 個別 全体 A:順調 B:順調でない	今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
	戦略の進捗状況 a:順調 b:順調でない	

具体的取組3-2-1

【「生野の魅力」の発掘・浸透】

30決算額 16,204千円 元予算額 20,165千円 2算定見込額 24,643千円

計画	当年度の取組内容 ◇子育て層・若年層等、ターゲットごとに生野の知名度・好感度が上がる魅力情報を発信していく。 ・広報紙の多言語翻訳版をアプリ配信 ・広報紙における特集及び連載記事の作成:年12回 ・広報紙をはじめ、区公式ホームページや公式ブログ・ツイッターといった各種広報ツールを活用し、まちに魅力を感じるような情報を発信する。(随時) ・各種施策・イベント等のプレスリリース、メディアへの情報提供(随時) ◇「やさしい日本語」区公式Facebookによる情報発信を行う ◇生野区まち情報サイト「いくのぐらし.com」を運営する「(一社)いくのもり」と連携を強化し、生野区の魅力情報等発信を行う。(通年) ◇市内の銭湯経営者や銭湯好き住民と、ICTの利活用により地域課題の解決に取組む「code for OSAKA」が連携し、アイデアづくりを進める「銭湯プロジェクト」への参画(随時)		プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標) ・公式ブログのビュー数の年間目標:18,000件 ・提供した情報がメディアで取り上げられた件数:12件以上(平均して毎月1件以上) 【撤退・再構築基準】 ・上記ビュー数が10,000件未満の場合、事業を再構築する。 ・上記回数が5割未満の場合、事業を再構築する。
	前年度までの実績 【令和元年度(9月末時点)】 ・ブログ投稿数:17件、ブログビュー数:11,711件 ・ブログを活用した地域情報の紹介:4回 ・メディアで取り上げられた件数:14件 ・官民連携生野区まち情報サイト「いくのぐらし.com」での行政発信:20件 ・広報紙の全戸配布を実施(7月)		
中間振り返り	プロセス指標の達成状況 ①:目標達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	戦略に対する取組の有効性 ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)		
自己評価	当年度の取組実績 プロセス指標の達成状況 ①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須 改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性 ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)		

具体的取組 3-2-2

【区民のわがまち意識を育てる】

30決算額 16,204千円 元予算額 20,165千円 2算定見込額 24,643千円

計画	当年度の取組内容 ◇生野のまちに誇りや愛着を持ち、生野区を盛り上げるために自主的に活動している区民や団体等を区民に幅広く知ってもらい、区内に「わがまち意識」を浸透させる。 ・生野区持続可能なまちづくり支援事業をはじめ、生野区を盛り上げるためのさまざまな取組を自主的に行っている区民や団体等の活動紹介・応援(PR協力)等(通年) ・生野区マスコットキャラクター「いくみん」ラインスタンプの販売(通年) ・区民まつりでの多文化共生ブースの設置(再掲) ・多文化共生に向けた当事者・支援者による自主的な取組への支援(再掲) ・市内の銭湯経営者や銭湯好き住民と、ICTの利活用により地域課題の解決に取組む「code for OSAKA」が連携し、アイデアづくりを進める「銭湯プロジェクト」への参画(随時)(再掲) ◇プレイスメイキング事業の推進 ・国産木材を活用して制作した椅子・机等を地域イベントなどに貸し出し、にぎわいづくりを行う。		プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標) 生野区を盛り上げるさまざまな取組が各地域で行われていることを知っている区民の割合:60%以上 【撤退・再構築基準】 上記割合が30%未満の場合、事業を再構築する。 前年度までの実績 【令和元年度(9月末時点)】 ・生野区持続可能なまちづくり事業に認定された団体の事業に対する広報紙への掲載等の広報支援 ・銭湯で防犯標語を啓発「いくのの日(19日)」はお風呂に行こう!実施 ・Twitterによる英語での銭湯情報発信「How to enjoy SENTO!」実施 ・区民による多文化共生のまちづくりシンポジウム開催支援(6月) 【平成30年度】 ・生野区を盛り上げるさまざまな取組が各地域で行われていることを知っている区民の割合:51%	
	プロセス指標の達成状況 ①:目標達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
中間振り返り	戦略に対する取組の有効性 ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)			
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施(ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施(ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成			
	戦略に対する取組の有効性 ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)			